

美術科学習指導案

指導者 広島市立〇〇中学校
教諭 〇〇 〇〇

1 日 時 平成27年12月〇日 (〇)

2 学年・学級 2年〇組

3 題 材 名 「もう一つの声」

4 題材について

○ 題材観

本題材は、中学校学習指導要領美術第2・3学年B鑑賞(1)アを受けて設定したものである。

写真家は、私たちがすでに知っている物や場面でも、四角いフレームに切り取り、作品にすることで、それまで気付かなかった美しさやおもしろさを発見させてくれる。写真を鑑賞することは、フレームの中に、撮影者が世界をどのように切り取ったか、光をどのように取り込んだかなどに意識を向けることである。それらを通して、撮影者の考え方や感性が表現されていることに気づき、それらを感じ取ることができる表現形態である。

本題材で取り上げる星野道夫の写真は、対象の動物の息づかいまで感じとれるような作品である。生徒が取り組みやすくお互いにつぶやきを述べあう中で想像力を働かせ、作品や表現などに表された撮影者の心情や意図と表現の工夫を感じとり、自分の価値意識を持って批評し合うことができる題材である。

○ 生徒観

本学年の生徒は、第1学年の際に、アートカードを使った鑑賞を行い、絵の中に描かれている物から季節を推測したり、場面の把握をしたり、絵から受ける印象や感想を発表する経験をしている。本校では、どの教科においても少人数グループによる話し合い活動を取り入れており、与えられた課題に対してグループで話し合い、意見を出し合える関係ができています。第1学年では、レタリングの作品、木材工芸の作品などからお互いの作品を鑑賞しており、身近な作品に興味を持ち、作者の意図や表現の工夫を感じ取ろうとする生徒が多い。

○ 指導観

本題材では、写真に対する自分の価値意識を端的に表すものとして、生徒一人一人にキャプションを考えさせることを主たる学習活動として設定する。キャプションは撮影者の思いを想像させ、撮影者がどのような思いや願い、あるいは意図をもって撮影したのかを表すことができるものである。キャプションの意味を十分に理解し、単なる題名や説明的な作文に終始しないように心がける。

導入では、星野道夫氏の生涯をまとめたDVDを視聴させ、人物像やアラスカへの思いを理解させ、そこに表現されている撮影者の意図やメッセージを読み取るようにさせたい。

後半は、生徒の作成したキャプションの中から共通の視点を見つけ、同じ視点でも別の感じ方とらえ方をしている生徒同士に批評活動をおこなわせることで、見方、感じ方が広がっていくようにさせたい。その際、板書やワークシートを構造化し、他の意見との共通点・相違点が視覚化できるようにする。全体鑑賞の前には、班の話し合いを活用し意見を交流し、全体に発表させる。全体鑑賞後には、再度キャプションを考えさせることにより、他者の考えを聞き自分の考えが広がったり深まったりすることが生徒自身にも意識できるようにさせる。

5 題材の目標

- (1) 撮影者の思いや願い、あるいは感性などを感じ取りながら、表現の手段としての写真への関心をもつ。
- (2) 撮影者の心情や意図と創造的な表現の工夫を感じ取り、作品に対するキャプションを批評し合い、その魅力を味わう。

6 題材の評価規準

ア 美術への 関心・意欲・態度	イ 発想構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
撮影者の思いや願い、あるいは感性などを感じ取りながら、表現の手段としての写真に関心をもとうとしている。			撮影者の心情や意図と創造的な表現の工夫を感じ取り、作品に対するキャプションを批評し合い、その魅力を味わっている。

7 指導計画（1時間）

時間数	学習内容	観 点				評 価 方 法
		ア	イ	ウ	エ	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・写真の声を聞いてみれば…… ・キャプションから作品を探せ ・全体鑑賞 ・写真と仲間の声を聞いてみれば 	○			◎	<p>ア. 撮影者の思いや願い、あるいは感性などを感じ取りながら、表現の手段としての写真に関心を持つようとしている。 (行動観察・ワークシート)</p> <p>エ. 撮影者の心情や意図と創造的な表現の工夫を感じ取り、作品に対するキャプションを批評し合い、その魅力を味わっている。 (行動観察・ワークシート)</p>

8 本時の展開

(1) 本時の目標

- ① 撮影者の思いや願い、あるいは感性などを感じ取りながら、表現の手段としての写真への関心をもつ。
- ② 撮影者の心情や意図と創造的な表現の工夫を感じ取り、作品に対するキャプションを批評し合い、その魅力を味わう。

(2) 本時の評価規準

観 点	評 価 規 準
美術への関心・意欲・態度	撮影者の思いや願い、あるいは感性などを感じ取りながら、表現の手段としての写真に関心を持つようとしている。
鑑賞の能力	撮影者の心情や意図と創造的な表現の工夫を感じ取り、作品に対するキャプションを批評し合い、その魅力を味わっている。

(3) 準備物

教科書、資料集、ワークシート、写真（作品）

(4) 学習の展開

学習のめあて…「写真」の声を聞いて良さや美しさを味わおう		
学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
<p>1 本時の学習内容の確認 ○本時の学習のめあてを知る。</p> <p>2 写真の声を聞いてみれば ○提示された作品をみて何を感じるか、第一印象を発表し合う。 ○星野道夫についての動画を視聴する。 ○星野道夫の世界観を踏まえた上で「星野さんの声を聞いてみれば何が聞こえてくるのだろう」と投げかけその聞こえてくるものをキャプションとしてまとめる。</p> <p>3 キャプションから作品を探せ！ ○2枚の写真カードの中から1点を選びキャプションを考える。 ○自分なりに考えたキャプションをキャプションカードに記入する。 ○自分のキャプションを読み上げ、他の者がそのキャプションに応じた写真を推測する。</p> <p>4 全体鑑賞 ○写真作品カードの下にそれぞれが書いたキャプションカードを貼りつないで掲示し、鑑賞する。</p> <p>5 写真と仲間の声を聞いてみれば ○提示されたキャプションについて、批評し合うことで、お互いの感じ方や見方を知り作品の見方を深める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第一印象をワークシートにメモさせる。「かわいい！」「きれい！」などでもよい。 ・星野道夫の人物像と作品について動画で紹介し、生徒に作者と作品に対するイメージをもたせる。 ・動画で知った星野さんの人物像を参考に「声」は星野さんが思いを語りかけているような設定にさせる。 ・キャプションは簡単には分からないが、正解すれば納得できるように工夫させる。 ・多様な意見が出るような自由な雰囲気をつくる。 ・キャプションを選んだ・書いた根拠を言わせ、根拠を言い合う中で自分と他者との考え方の共通点や相違点に気づかせる。 ・他の班の生徒の考えを知ることで見方や感じ方を広げさせる。 ・視点の似たキャプションごとにまとめて掲示するようにして、後の批評活動がしやすいようにする。 ・同じ視点でも感じ方が違っている場合、自分もっていなかった視点から見ている場合などを取り上げて質問し、生徒同士が批評し、意見を出し合えるように仕組む。 	<p>ア 撮影者の思いや願い、あるいは感性などを感じ取りながら、表現の手段としての写真に関心をもとうとしている。（ワークシート・観察）</p>

<p>○批評の後，作品に対するキャプションを再考し，付け足しや，変更を記入する。</p>	<p>・再考したキャプションを発表させる際の話形を示す。 『私の書いたキャプション①は，「○○○……。」でした。キャプション②は，「○○○……。△△△……。」というふうに書きました。』</p>	<p>エ 撮影者の心情や意図と創造的な表現の工夫を感じ取り，作品に対するキャプションを批評し合い，その魅力を味わっている。（ワークシート・観察）</p>
<p>6 本時のまとめと次時の確認</p> <p>○教師の話聞いて，自分や他の人から出た鑑賞の視点を確認する。</p> <p>○ワークシートに本時の感想を記入する。</p> <p>○次時の確認をする。</p>	<p>・自分の見方を提示できた生徒，他者の見方について批評し，見方や感じ方を広げる事ができた生徒について肯定的に評価する。</p> <p>・時間に余裕があれば，本時の感想についても発表させる。</p>	

(5) 本時の学習の見どころ

- ① 他の生徒の書いたキャプションがどの作品のキャプションか推測することを通して自分の感じ方の幅を広げるところ。
- ② 提示されたキャプションについて全体で批評し合い，自分の見方や感じ方を広げ，深めるところ。